

等々力陸上競技場第2期整備「整備計画」

平成30年3月 川崎市

1 目的

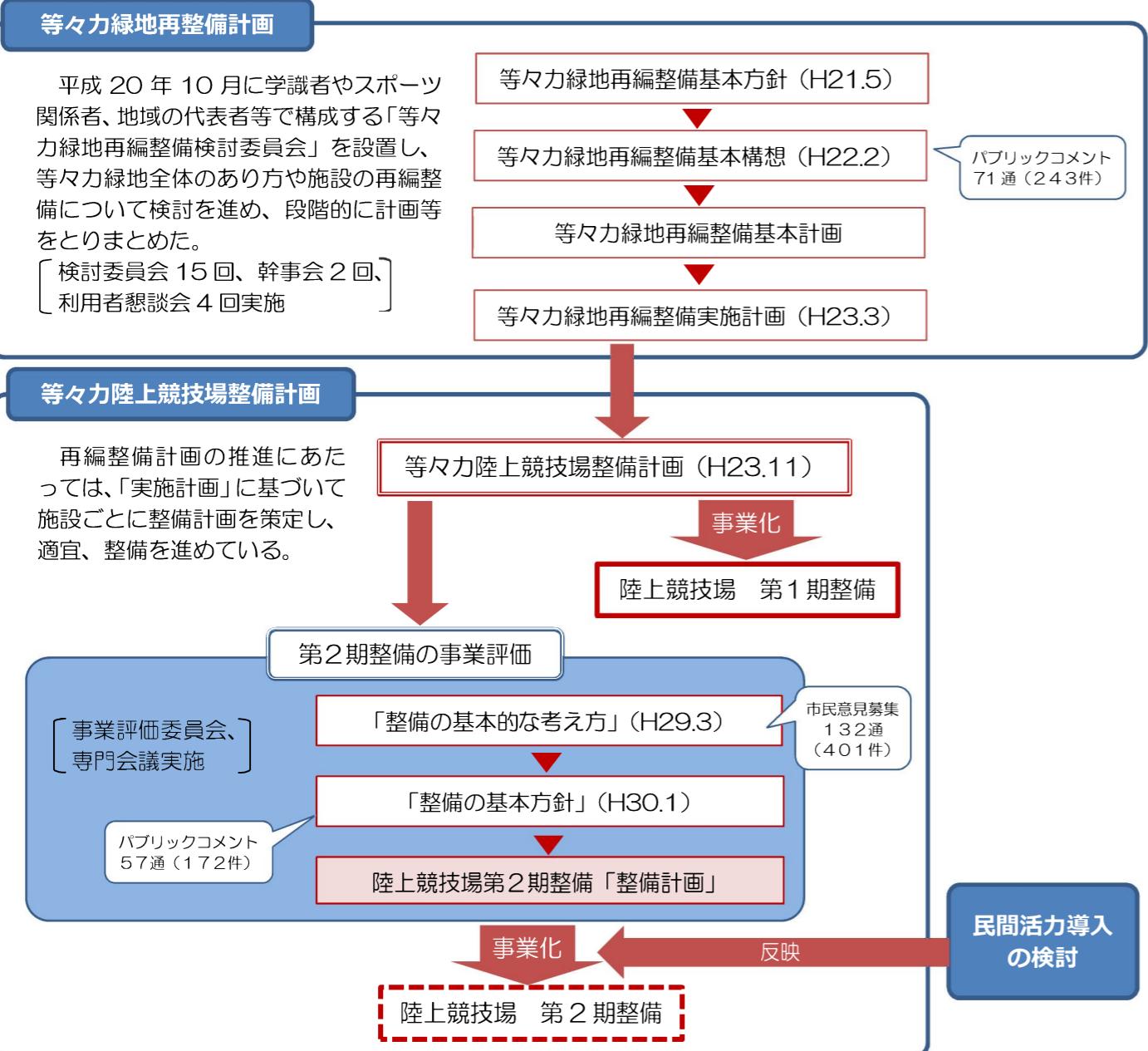
等々力陸上競技場は、施設の安全対策や機能向上等の必要性から平成23年11月に「等々力陸上競技場整備計画」を策定し、第1期整備としてメインスタンドの整備（平成27年3月供用開始）を実施しました。

第2期整備（サイド・バックスタンド整備）については、事業評価として、第2期整備のあり方や整備手法及び事業費、工事期間、周辺に与える影響、資産マネジメントの取扱いなどを総合的に検証し、整備計画を策定することとしております。そのため、各種競技を開催するための基準や要望等の課題整理と、時代のニーズを見据えた公園施設としての競技場のあり方などを踏まえ、「現状と課題」、「課題改善に向けた視点」の抽出と「整備の基本的な考え方」を整理するとともに、競技場の性能や資産マネジメントを含めたコスト等に関する項目で整備手法の評価を行い、平成30年1月に「整備の基本方針」を策定しました。

今回は「整備の基本方針」をもとに、今後の設計・整備に向けた方針やスケジュールなどを取り入れた「整備計画」を策定しました。

2 「整備計画」の位置付け

「事業評価」では第2期整備の「整備の基本方針」及び「整備計画」を策定し、事業化を図ります。

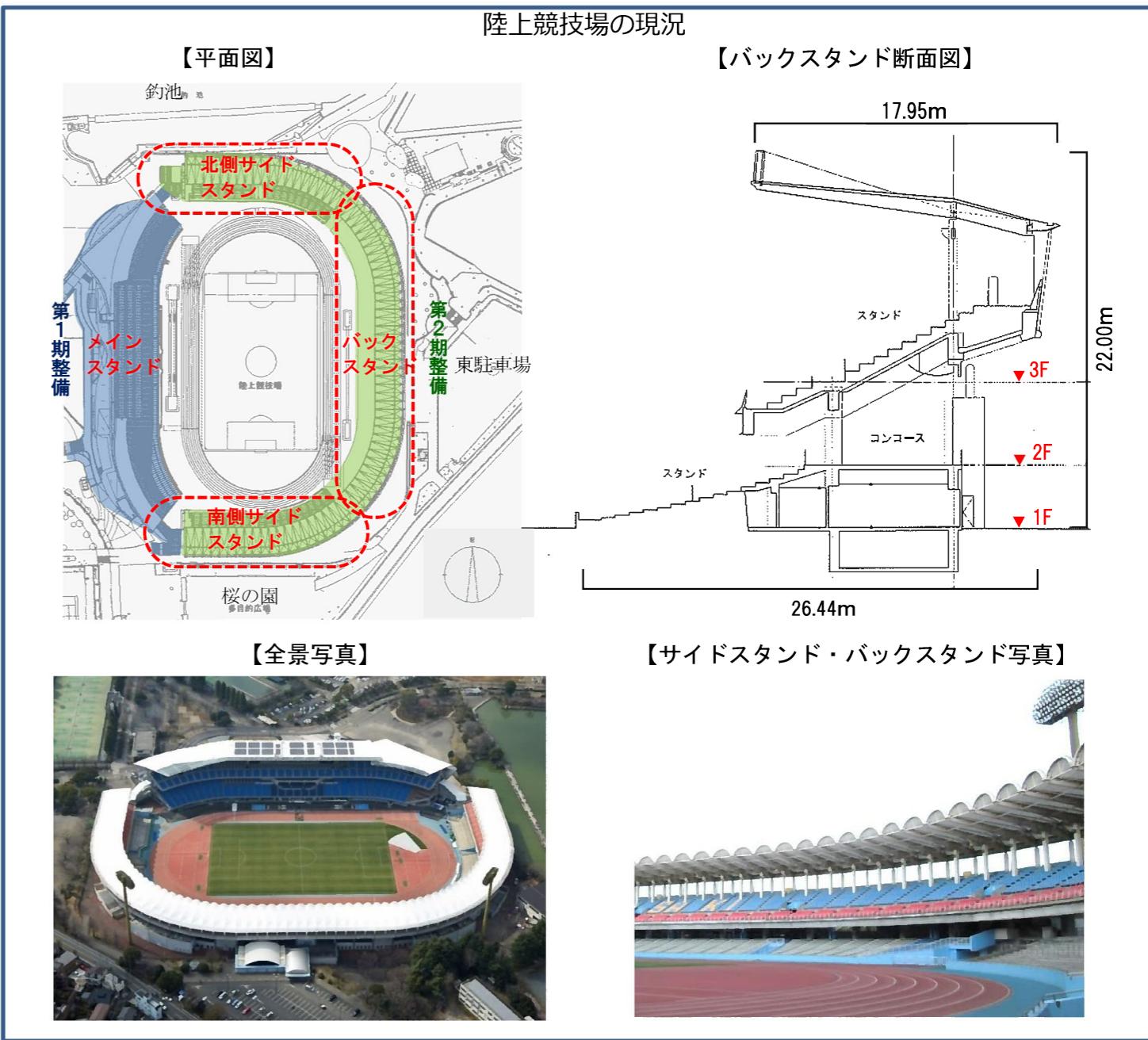


3 陸上競技場整備の施設概要

等々力緑地には、陸上競技場、硬式野球場、テニスコート、サッカー場等の運動施設があり、多くのスポーツの拠点となっております。その中で、陸上競技場は市内唯一の日本陸連認定公認の陸上競技場であり、市内学生の公式の陸上大会などに使用するとともに、Jリーグなどの試合・大会も開催している施設です。

- 施設面積: 43,893.07 m² (サイド・バックスタンド: 22,039.21 m²)
- 主な整備歴: 昭和41年度 メインスタンド・外周芝生スタンド整備
昭和57年度 バックスタンド増設1回目 (1階スタンド整備)
平成6~7年度 サイド・バックスタンド増設2回目 (2層式スタンド整備)
平成27年3月 陸上競技場第1期整備
- 陸上競技場: 日本陸連第3種公認 (※平成32年に第1種公認予定)、陸上トラック 400m×8レーン
- 収容人員: 27,495人 (※Jリーグ公式届出は、26,827人)

平成29年4月1日現在



4 整備計画

第2期整備に向け、方針やスケジュールについて取りまとめた「整備計画」を示します。

4-1 整備の基本方針

今後の第2期整備に向け、増改築案を基本とした「整備の基本方針」を次のように定めます。
(平成30年1月策定の「整備の基本方針」より)

① 緑地や地域の賑わいを創出する持続可能な施設とする

- メインスタンドや他の緑地内施設とあわせ、常に多くの人が訪れる利用できる施設等を設け、その集客力や収益性により地域還元を図る取組や、民間活力の導入を検討するとともに、賑わいにより公園内をはじめ、公園周辺及び小杉駅周辺地区を含めた地域の活性化に資する施設とする。
- 地域のアイデンティティとなる二ヶ領用水や多摩川緑地と一緒にした魅力づくりを進める。
- 効率的な管理・運営や来場者がより楽しむことができるよう、ICTや映像等の先進技術の機能の充実を図り、常に多くの人が訪れる、賑わいを保つ施設とする。

② 多くのスポーツの拠点に相応しい、魅力的で誰もが利用できる施設とする

- Jリーグや国際的な陸上競技大会などが開催できる収容可能人数35,000人規模で、日本陸上競技連盟第1種公認施設とし、幅広いスポーツ利用とプロから一般までの各種大会が開催できる、川崎のスポーツの拠点となる施設とする。また、スタジアムの光・風・音を適切に制御した最適な競技環境を確保するとともに、周辺環境へ配慮した施設とする。
- 選手から近く臨場感溢れる快適な観戦環境を確保することにより、選手と観客の一体感を生み出し、スポーツをより楽しめる施設とする。また、全席に屋根があり背もたれ付きの快適な観客席とする。
- Jリーグや陸上競技大会など以外でも、誰もが日常的に利用できる多目的な機能を備えた複合施設とする。

③ ユニバーサルデザインに配慮した安全・安心な施設とする

- 競技者や観戦者を問わず、子供から高齢者、親子連れ、障害者、外国人など、どこでも全ての人が使いやすい施設とする。
- 円滑な通行動線の確保と案内等のサインやセキュリティを充実させ、安全・安心な施設とする。

④ 環境に配慮した施設とする

- 木材の活用などにより、公園内施設に相応しい、緑との調和に努めるとともに、周辺環境にも配慮した施設とする。
- 太陽光や地中熱など、再生可能エネルギーを活用し、資源の有効利用を図るとともに、省エネルギー設備の導入や積極的な緑化により、環境負荷の軽減を図る施設とする。

⑤ 災害に対応できる施設とする

- 地震災害時などにおいて、区民の安全を確保する一時避難場所、広域避難場所である等々力緑地の施設として活用できる施設とともに、災害支援活動に必要な物資を保管する防災備蓄倉庫を備えた施設とする。
- 大雨時などの水害に配慮し、浸水に強い施設とする。

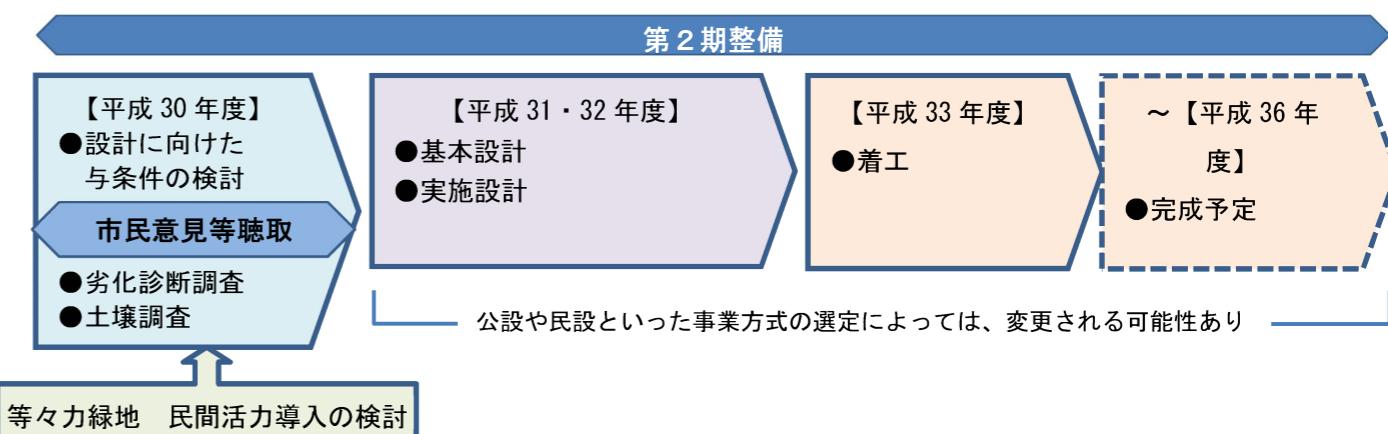
⑥ 試合や大会を開催しながらの整備とする

- 各種試合や大会を開催しながらの整備を基本とし、整備中の施設閉鎖期間を可能な限り短縮する。
- 整備中の収容可能人数は、Jリーグ開催への影響を最小限に抑えるため、分割施工とする。
- 日本陸上競技連盟第3種公認を確保しながらの整備とする。
- 陸上競技場周辺への影響を最小限に抑えた整備とする。
- 長寿命化に向け維持管理しやすい施設とする。

4-2 整備時期（スケジュール）

第2期整備のスケジュールを次のように示します。

なお、第2期整備については、現段階では川崎市による整備（公設型）を想定しておりますが、民間活力導入の検討において一定の方向性を出した段階で、事業方式に応じた整備スケジュールの見直しを行います。



5 今後の事業推進に向けた平成30年度の取組内容

今後の設計に向け、平成30年度に行う主な取組内容を次のように示します。

(1) 設計に向けた与条件の検討

本検討においては、「4-1 整備の基本方針」を踏まえながら、スタジアムの構造形式や座席数、施設に取り入れる諸機能とその規模、大まかな施設配置など、今後の設計の与条件となる必要事項を検討し、基本計画として取りまとめてまいります。

また、本検討にあたりましては、最良の第2期整備とするため、市民や民間事業者、利用団体、学識者等幅広くご意見を伺いながら、緑地全体の魅力向上の観点から、緑地における陸上競技場の役割を整理し、第2期整備に必要な機能等の検討を進めてまいります。

example)

- ✓ 市民などが日常的に利用できる施設、緑地内のイベント開催時にも利用できる施設など、緑地内の賑わいづくりに寄与する競技場の複合機能の検討
- ✓ 選手や観客の一体感・臨場感を生み出す構造形式や席種・席数などの観戦環境の検討

(2) 事業手法の検討

第2期整備の設計や施工について、公設による従来型の設計と施工を分離発注した方式や、第1期メインスタンド整備で行った設計施工を一括発注した方式のほか、設計・施工・管理・運営を一括で発注を行い、民間の資金、経営能力、技術的能力を活用する民設によるPFI方式など、等々力緑地全体の賑わいを創出する効率的・効果的な事業手法を検討します。

なお、公設方式を前提とした整備の基本方針においては、増改築案を基本として進めることとしていますが、民間活力を導入した整備方式の検討については、さらに民間の資金やノウハウの活用などの視点を踏まえながら、総合的に検討を行ってまいります。

example)

- ✓ 多摩川緑地など、周辺を含めた緑地全体の魅力づくりと各施設の整備・管理・運営に関する検討
- ✓ 第2期整備における募金を含めた民間活力の導入に向けた仕組みづくりを検討

(3) 劣化診断と土壤の調査

既存サイド・バックスタンドの現状調査として、建物部材の劣化診断調査や存置予定躯体の耐力度調査を実施します。あわせて、効率的・効果的に工事を進めるため、整備予定地の土壤調査を実施し、設計に向けた与条件の検討作業に反映させてまいります。